

御言葉の学びに入りましょう。ピリピ3章12-16節。

使徒パウロが聖霊によって、ピリピの教会に書いています。

**ピリピ3:12-16**

12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。

ただ捕えようとして追及しているのです。

そして、それを得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

13 兄弟たち、私は自分がすでに捕らえられたなどと考えるとはいません。

ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、

14 キリスト・イエスにあつて神が上に召してくださるといふ、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。

15 ですから、大人である人はみな、このように考えましょう。

もしも、あなたがたが何か違う考え方をしているなら、そのことも神があなたがたに明らかにしてくださいませ。

16 ただし、私たちは到達したところを基準にして進むべきです。

私たちが理解できるように、神に祝福を願って一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、あなたの御言葉を共に学ぶことができる今朝のこの時を感謝します。

聖霊だけが私たちの理解を導き、理解できる目を開いて下さいますから感謝します。

あなたが私たちに、あなたの教会に理解させて下さい。

主よ、どうか、御言葉を通して私たちのいのちに明確に語りかけて下さい。

あなたにお願いし、イエスの御名によって祈ります。アーメン。

今日お話したいのは、クリスチャン人生を破壊する最も大きな力だと信じていることです。

それは「過去の出来事」

そして「罪と非難」

敵は常にこれをセットにして、私たちが神から引き離そうとします。

次のことを理解しておいて下さい。

私たちがイエス・キリストによって救われると、サタンはその策略・戦略を変えます。

主に立ち返る前は、敵は私たちが主から遠ざけることだけに必死でした。

しかし一度、イエス・キリストによって救われると、敵は戦略を変え、人生を破壊する力をもたらしながら、私たちが主から引き離すことが全てになり、それを成し遂げようとしています。

これが、サタンがしていることで、盗み、殺し、滅ぼす者を捜し求めているのです。

その方法の一つが、私たちが過去の重圧の下に押し潰すことです。

**ヨハネ 10:10**

盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。

しかし主は言われました。

わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。

簡単に言うと、簡単過ぎていないことを願いますが、「過去は現在と、そして未来をも滅ぼすことができる」

これについて語る事ができたのは、他にもない使徒パウロでした。

その理由は皆さん知っていると思います。

明らかに敵は、彼がクリスチャンを投獄し殺害までした事を、四六時中絶え間なく思い起こさせました。パウロは、教会で初めての殉教となるステパノの死に賛同していたのです。それが、彼を何よりも悩ませました。それで敵は、この件で一度パウロを滅ぼそうとします。これは使徒 7:54-8:3 に記載されています。

そして彼（ステパノ）を町の外に追い出して、石を投げつけた。

証人たちは、自分たちの上着をサウロという青年の足もとに置いた。（使徒 7:58）

興味深いのは、人々に石を投げつけられている間のステパノの最後の言葉である祈りです。

「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」（使徒 7:60）

十字架刑の“救い主の祈り”と重なります。

「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」（ルカ 23:34）

サウロはステパノのこの祈りを聞いたでしょう。

彼の祈りは、当時の“タルソスのサウロ”に衝撃を与えたと思います。

サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。（使徒 8:1）

彼が処刑された後、サウロは教会を滅ぼし始めました。

サウロは家から家に押し入って、教会を荒らし、男も女も引きずり出して、牢に入れた。（使徒 8:3）

そんな過去があるのを想像できますか。

そのような行為に伴う後悔を想像することができますか。

これが若かりし頃のパウロ（サウロ）です。

彼がピリピ書を書いたのは、主と共に歩んでおよそ 30 年の時で、約 25 年間は伝道していたと考えられています。考えてみて下さい。

彼は少なくとも 25 年か 30 年前の昔のことを、若かったあの時に自分がしたことを振り返っているのです。

そこで、今日取り組みたいことは、「使徒パウロは、どうやって“タルソスのサウロ”としての自分の過去を忘れることができたのか。乗り越えることができたのか。」

更に重要なテーマは、「私たちは、どのようにしたら自分の過去を忘れることができるのか。」

感謝なことに、パウロが自分を手本にして、どうやったら過去を、今も残っている過去の罪、過去への後悔を忘れることができるのかを、聖霊の導きによって、聖書そのものを通して答えてくれています。

これから話すのは、2 つの非常に実践的な方法です。

クリスチャンである私たちは過去の中に留まるのを止め、イエスが来て、与えて下さったいのちを生き始めることができるのです。

それは、豊かないのち、目的あるいのち、完全ないのち。聖なるいのち。

1 つ目は「ひたすら走ること」(Press On)

ピリピ 3:12-14

12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。

ただ捕えようとして追及しているのです。

そして、それを得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

13 兄弟たち、私は自分がすでに捕らえられたなどと考えるはしません。

ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、

14 キリスト・イエスにあつて神が上に召して下さるといふ、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。

パウロは「私はまだ辿り着いていない」「キリストが捕らえて下さっていても、私はまだ捕らえていない」と言っています。

彼が言っているのは、

**14 キリスト・イエスにあつて神が上に召して下さるといふ、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。**

彼はスポーツにたとえて、実際、現在はオリンピックとして知られている当時の競争をたとえに用いて、目標を目指して一心に走る様子をイメージしています。

決して後ろを振り返りません。

後ろのものを忘れ、ただひたむきに前のものに向かって進み、ゴールで待ち受けるテープを切ろうと、走りながら体を前に押し出している。

これが、パウロが言っていることです。

キリスト・イエスにあつて、天に向かって走る。

これが彼の使命であり、私たちの使命です。

このために、過去を忘れてひたむきに走るのです。

過去に留まらないで。

過去に引きこもらないで。

それは、クリスチャン人生を破壊する最もパワフルな力の一つなのだから。

クリスチャンの結婚生活に於いてもそうです。

過去を持ち出す…

それは2つの言葉で証明されるのですが、とても致命的な言葉です。

「いつも、そう！」と「絶対～しない！」

これらは過去に対する言葉です。

「あなたって、いつだってそうじゃない！」「おまえは絶対これをしない！」

「先生、記録をつけているの？」そうですよ。見たいですか。巻き物を開きますよ。

私のマイクロソフト・ワードのファイルは大きすぎて、フラッシュドライブに入れなければならなかったのです。

お望みならダウンロードしますよ。300ページあります。

敵は、私たちが常に過去について思い、過去に留まるように、何が何でもそうさせたいのです。

なぜだか分かりますか。

イエスは実際、過去に関してハードルを上げています。

**すると、イエスは彼に言われた。**

**「鋤に手をかけてからうしろを見る者はだれも、神の国にふさわしくありません。」(ルカ 9:62)**

言い換えると、「私たちはふさわしくない。」

敢えて言いますが、私たちが後ろを振り返る時、或いは、振り返って前へ進まないなら、イエスのしもべとして失格なのです。

ここの文脈は、イエスから「わたしに従って来なさい。」と言われた人たちが、あらゆる言い訳をした話です。

「私、家族の世話をしなきゃいけない。」「まだやらなきゃいけない事があってさ…」

そして彼らは、イエスに従わなかった。

そういうことです。

ちょっと触れておきたいことがあります。

過去の良い出来事に留まることも、自慢の中に留まり、高ぶるという意味で、私たちが縛ることになります。

どちらにも作用するのですよ。

過去の栄光はおごり高ぶらせ、過去の罪は非難の中で動けなくする。  
敵はそれを知っているのです、私たちの人生に、その両方を利用するのです。

ずいぶん昔、ロシアにいた時のことですが、忘れられないことがありました。  
私はモスクワの神学校で教えていて、クラスの学生たちと毎晩伝道に出ていました。  
ある夜のこと、神が偉大な形で働かれて、敵は私たちを締め出そうとしましたが、会場は全員若者で満杯。  
本当に素晴らしかった。  
もう、かれこれ20年は経っているでしょうが、その時のことを今も振り返ります。  
若者たちが救われ、神が祝福して下さり、ものすごい神の御力でした。  
翌朝のデボーションの時、私は学生たちに「昨夜は素晴らしかったね。」「はい。素晴らしかったです！」  
「神が本当に働いて下さったよね。」「はい。働いて下さいました！」  
「問題はそこなんだよ。サタンは最高の気分だったはず。」「???」  
学生全員が、「神が最高の気分だった、でしょ。」という感じで私を見ました。「サタンが最高の気分？」  
「そうだよ。サタンが、という意味だよ。」

大きな勝利の陰には、常にサタンが、私たちを山頂から引きずり降ろそうと忍耐強く潜んでいるのです。  
サタンはこういう風にささやきます。  
「昨夜は本当に素晴らしかったね。」「はい。」  
「本当に素晴らしかった。まさしく神が働いて下さったよね。」「はい！」  
「ねえ、キミってすごいね。」「ええ。私、ちょっとすごいんです！」  
敵はその出来事であなただけを持ち上げて来ます。  
誰もがみんな、はまり易い状況ですよ。  
まるで自分たちが何かをしているかのような、肉の栄光に向かってしまう。  
「私のあの招きの言葉、すごかったよね！ 栄光だ!!」

これは、人生になされた神の驚くばかりの御業の時を振り返ってはならない、という意味ではありません。  
ただ私たちは、罪深い性質のために、その栄光に安住し、称賛を自分のものにしがちで、それが危険なのだとい  
う意味です。  
サタンは私たちを攻撃するために、その全てを利用しようと準備しているのです。  
私は長年、それを見て来ました。  
神に偉大な形で用いられ、生涯その栄光の中に安住してしまった人たち。  
彼らの話を聞いていると、いつも“神がされたこと”ばかりです。“過去”に。  
いいですか。  
私はそのことを感謝し、神をほめたたえます。  
しかし、“今”、神がしておられることを話しましょうよ。  
神が“この先”しようとなさっていることを話しましょうよ。  
あなたはそこに安住するのですか？  
それを額に入れて、栄光としてオフィスに飾っておくのですか？

唯一、手を鋤に置いている時にだけ、またはパウロが言っているように、走り続けてゴールテープに向かって体  
を倒す時のみ、神に仕え、従うのにふさわしい者となれるのです。  
前に向かって走り進むことに必死で忙しいなら、後ろを振り返る余裕などないと思いませんか。  
同じことを別の言い方で言います。  
論理的に判断すると、聖霊にあって忙しく、聖霊と共に踏み出し、聖霊にあって歩み、聖霊にあって前へ進むな  
ら、忙し過ぎて、肉のための時間はないと思いませんか。

“Idle hands are still the devil’s workshop”

「暇人の手許は悪魔の仕事場；小人閑居して不善をなす」（何もしないと、悪魔に使われることになる）

この言葉のように、神の仕事で忙しくしていないなら、大きな過ちを犯すと思います。

なぜなら、怠慢になるから。

霊的なことに忙しくしていない時は、磁石が引き合うように、肉の用事のために時間を全て費やして、大体が怠慢になるのです。

ところで、パウロが書いたガラテヤ人への手紙、その学びの時に話しましたが、

**御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。（ガラテヤ 5:16）**

これが、クリスチャンになりたての頃の私には、いつも納得がいかなかったのです。

だけど、神が意図していること、すなわち、神の働きでとても忙しいなら、肉のための用事や、この世のことに費やす時間は全くないということを、私の人生に当てはめて見せて下さった時、本当に祝福されました。

それらは私たちの注意を引こうとしますが、忙しくてその時間がないのです。

ネヘミヤを思い出します。（ネヘミヤ記）

サンバラテとトビヤ、アラブ人は…アラブ人には注意しましょう。

彼らはネヘミヤを騙そうとして策略を練り、彼を捕まえにやって来ます。

実際、ネヘミヤを殺そうと企んでいました。

神の働きである城壁再建が気に食わなかったので、阻止するためにあらゆる事をしたのです。

彼らはネヘミヤの所に行き、「会見しよう。」「さあ、話をしようじゃないか！」

私はネヘミヤが言ったことが大好きです。

「忙し過ぎて時間がありません。以上。」

聖書本文そのものではないけど、基本的に彼が言っているのは、「私は神の仕事をしていて忙しいのだ。神の御用で忙しくて、お前たちに関わっている時間などない！目の前から失せろ！」

今度悪霊がドアをノックして「ほら、これを見てごらんよ。」と言う時、「私には時間がない！」

「じゃあ、これはどう？」「いやいや、忙しいんだ。」

「じゃあ、あれはどうか？」「そんなこと、もうとっくに忘れた。」

ところで神は、「サタンがあなたの過去を思い起こさせる時、サタンに自分の未来を思い起こさせなさい。」

と言われました。

「オマエは既に負けた敵なのだ！出て行け！嘘つきめ。嘘つきは出て行け！」

サタンが、私たちの思考にどういうものを置くか分かりますね。

過去を忘れるための方法の2つ目は「考え方を変えること」(Think Differently)

**ピリピ 3:15-16**

**15** ですから、大人である人はみな、このように考えましょう。

もしも、あなたがたが何か違う考え方をしているなら、そのことも神があなたがたに明らかにしてください。

**16** ただし、私たちは到達したところを基準にして進むべきです。

パウロは、恵みの中で成長し、キリストにあって成熟することで、考え方がすっかり変わるほど新しくされるということについて語っています。

これについては4章、特に6-8節でもっと深く話していきますが、そこでパウロは、

**ピリピ 4:6-8**

**6** 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神

に知っていただきなさい。

7 そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心 (Heart) と思い (Mind) (思考ですよ) をキリスト・イエスにあって守ってくれます。

8a すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、(嘘ではなく) すべて正しいこと、

8 節で言っているのは、実際に私たちが考えるべきことの全リストです。

私たちの問題が分かりますね。

G. Campbell Morgan (ジョージ・キャンベル・モルガン 1863-1945) が言っていたと思いますが、「私たちは神の真理ではなく、サタンの嘘に耳を傾けている。真理の御言葉ではなく。」

私たちがサタンのウソに耳を傾けるなら、最終的に、そのウソを信じてしまう。

戦いの場は思考の中です。

サタンは私たちの思考を読むことはできませんが、私たちの思考の中に、自分の考えを置くことができます。それがサタンのすること。

だから戦いは思考の中にあるのです。

これが、私たちがキリストの思考を持たなければならない理由です。

これらのことを考えながら、

8b すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判の良いことに、また、何か徳とされることや称賛に値することがあれば、そのようなことに心を留めなさい。

聖書には、思考に関する記述、約束が次から次へと溢れています。

あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性 (Mind) を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。(マタイ 22:37)

ただ問題は、私たちの思考が崩壊していることです。

私たちは様々な議論と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち倒し、また、(聞いて下さい) すべてのはかりごとを取り押さえて、キリストに服従させます。(Ⅱコリント 10:5)

すべてのはかりごとを取り押さえて、キリストに服従させるとはどういうことでしょうか。

それは、サタンの考えが、私たちの思考のしなやかな土壌に植えられて芽を出す前に、それを捕えなければならないということ。

それを先に捕えて吟味しなければなりません。

「ちょっと待て。待て、待て、待て、待て！」「その考え、早まるんじゃない！」

「それが神、キリストの御言葉にかなっているかどうか、それは聖書的か、それは真理か、確信を得よう。」

真理でないなら「出て行け！」です。

真理でないなら、それはウソですから。

思考の中にやって来ることを、それが定着する前に捕える。

それは、真理でなければなりません。

偽りの父は私たちの思考の中に、毎日常に 1000 回、いや 1 万回、キリストの御言葉に従わないウソを植えようとしているのです。

ローマ 12:1-2 は、聖書全体の中で、私の大好きな御言葉です。

この世と調子を合わせてはいけません。

むしろ、(聞いて下さい) 心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。

そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。(ローマ 12:2)

でもこれには 1 つ、前提条件があります。

それは、この世と調子を合わせないこと。

それよりもむしろ、心を新たにすることで、自分（思考）を変えていただくこと。

どうやってかという、神の御言葉（聖書）によって。

洗脳するのではなく、御言葉の水で脳を洗い、清め、浄化するのです。

私は木曜日夜の詩篇 119 篇の学びが待ち切れません。

聖書中、最も長い箇所、携拳が起こらないなら多分 1 年はかかるでしょう。本当に楽しみです。

神の御言葉が何であるか、何をなすか、どれほど力強いものか。

神の御言葉がすべてです。

締めくくる前に、「過去に、誰かに深く傷つけられたこと」について話さなければなりません。

自分がした事はそんなになくても、されたことの方が大きいというのは、多分皆さんもそうでしょう。

自分にされたことの方が深い。

敢えて言うと、私たちの誰もが、本当に信頼していた人たち、とても親しくしていた人から、何らかの形で虐待された経験、または裏切られたり、深く傷つけられた経験があります。

それは、本当に深く傷つく。

しかし、あなたがそれをそのままにするなら、その傷は生涯ずっと残るのです。

ヘブル書の著者は、「あなたの内面でそれが化膿することを許してしまえば、それがあなたを破壊する。

精神的に、肉体的に破壊する。」

言い得て妙です。

今、ある本を読んでいるのですが、神が教えて下さっている事を、4 章に入る頃にもっとお話したいと思います。

それは、私たちが通る苦痛やストレス、恐れや不安によって体が受けるダメージと破壊についてで、それには、神が下さるアドレナリンで対処しなければなりません。

それが回復しない時には、消化器系が壊され、多くの心臓病、心疾患を引き起こされるのです。

十戒 (Ten Commandments) は、優しい掟 (Tender Commandments) と言われています。

「あなたがこれをしてはならないのは、あなたがそれをするとなんが起きるかを、わたしは知っているからだ。

わたしはあなたをととても愛しているから、わたしにはそれが耐えられないんだよ。」

私は、神が何かを語られるのは、私たちを愛しているのです、誰も不必要に傷つくるのを見たくないからだといつも思うのです。

ある人の言葉ですが、「罪というのは、禁じられているから悪いのではない。

罪というのは、悪いから禁じられているのだ。」

罪は私たちにとって悪いもので、私たちを傷つけます。

罪は人生を破壊する最も大きな力で、過去の重圧で私たちを押し潰している。

ヘブル書の著者が言いました。

「誰かに傷つけられた過去の傷という膿をそのままにするなら、温存するなら、その小さな苦い種が育ち始めて、あなたを汚す苦い実になる。」

それがあなたに起こることであり、根本的にあなたを、あなたの人生の全ての領域を破壊するのです。

私は決して、皆さんの身に起こった事を軽視して言っているわけではないことを分かって下さい。

私が言いたいのは、私が誰かによって苦しんでいた時に、神が長年にわたり導いて下さったことです。

私も他の人と同じように、そこに留まってしまいそうでした。

そのことに対して、はらわたが煮えくり返りそうでした。

ところが、ある時点で、主が基本的にはこう語られたのです。

「もし、あなたがそれに対処しなければ、それがあなたの人生を、ミニストリーを、結婚生活を破壊する。」  
残念なことに、殆ど破壊寸前でした。

しかし神は、神だけができる方法で、新鮮な新しい形で思い出させて下さいました。

「それは、あなたに対して起こったのではなく、あなたのために起こったことである。」

私は、彼らが私にしたことを四六時中考えていて、「彼らが私にしたことが信じられない！」

すると、私の救い主イエスが、

「その気持ちは分かっているよ。彼らはそれを、わたしに対してもしたのだから。わたしも裏切られたのだよ。」

「主よ、あなたが裏切られたことは、私がされたことよりも、はるかにひどいことです。主よ、ごめんなさい。」

「だが、わたしは彼らを赦した。」「はい。そうでした。」

「わたしは彼らを赦したい。」

だから、あなたがしてきた事に対して既に受け取っている主の赦しをもって、あなたも彼らを赦すことができるのだよ。」

「でも主よ、私はひどく傷ついたんです。」

「分かっているよ。わたしも血の汗を流すほどに、精神的にも肉体的にもひどく傷ついていたよ。」

「私は血の汗は流していません…」

「わたしはあなたのために死んだ。」

そして、あなたのために死を打ち破って、死からよみがえり、あなたの罪の全代価を支払ったのだよ。

彼らの罪も一緒にね。

問題は、あなたが彼らにされたことではない。

そこから目を離さない。

その出来事の中に留まるのを止めなさい。

その出来事を考えるのを止めなさい。

そうではなく、あなたへの愛のゆえに、わたしがあなたのためにしたことを考えなさい。

あなたの身代わりになって、わたしがあなたのために耐えたことを思いなさい。」

それを記念して、私たちは毎月第1日曜日、今日、聖餐式を行うのです。

祈りましょう。

天のお父様、ありがとうございます。

過去を忘れ、天に向かってひたむきに進むという使徒パウロの模範を感謝します。

それは、あなたが上に召して下さっている高い使命への賞です。

主よ、特に、今日ここにいる、ずっと過去に留まっている人のために祈ります。

そのことが、本当に彼らを破壊しています。

どうかあなたが、その足かせから解き放して下さい。

今日ここから出る時には、来た時と全く違う彼らにして下さい。

**子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由になるのです。(ヨハネ 8:36)**

イエスの御名によって。

アーメン。

~~~~~  
「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオヘ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi